

加藤 昭彦

加藤 昭彦



誰かを幸せにして初めて、

自分も幸せになれる

誰かの役に立ちたいと
市役所への入庁を決意

大学時代は、真面目な学生でした。私はいわゆる苦学生で、学業とアルバイトを両立させることに精一杯。唯一の楽しみは、体育の授業のバスケットボールで、これだけは絶対に休まずに行っていました（笑）。あまりにも楽しく、社会人になってからも社会人チームでプレイするほどでした。ゼミでは交通政策を学び、主にデマンドバスやバスロケーションシステムについて研究。高松市は、鉄道もバスもあって、交通網の整備が課題でしたので、大学で学んだことが仕事の役に立っていると感じる場面が何度もありました。

高松市役所への入庁を決めたのは、人の役に立つ仕事がしたいと思ったから。最初に配属されたのは、議員さんの仕事の補佐をする市議会事務局でし

で、とてもうれしく思っています。野菜や果物を摂ることで栄養も偏らないので、健康面をサポートできているという点も、やりがいのひとつです。学生さんには、こうした活動があるということを知ってもらい、今は誰かに支えてもらう側でも、将来大学を卒業した後、今度は自分が誰かを支える側になってほしいと思っています。

自分の大学時代を振り返ると、家庭の事情もあったので仕方がないのですが、やはりもう少し自分の時間が欲しかったなと思うことがあります。今、大学に通っている人、そしてこれから大学生になるという人には、勉強もそうですが、ぜひいろんなことにチャレンジしてほしいです。そうして大学在学中に、自分の将来の進路を見つけられ

た。香川大がコロナ禍に実施した学生アンケート調査も見せてもらいましたが、そこには「アルバイト先がなくなつて生活費が稼げず、このままでは大学に通えなくなるかもしれない」「実家の家業がダメになってしまい、奨学金だけでは通うのは難しい」という悲痛な声が。どうか役に立ちたいと思ったのが、この活動をはじめたきっかけです。卸売業者も「廃棄野菜をどうにか活用できないか」と考えており、うまくマッチングができた事例となりました。

この活動は現在も続いています。学生さんに喜んでいただけているよう

渡つていきます。厳しい財政状況ではありませんが、「選択と集中」の考え方に基づき、ひとつずつ確実に課題を解決していきたいです。

今は誰かに支えられていても、将来誰かを支える人になってほしい

私は副市長の仕事とは別に、高松市社会福祉協議会の会長を務めています。社会福祉協議会は、高齢者、生活困窮者、そして子どもや障害者が幸せに暮らしていけるように支援をする法人組織。コロナ禍以降、高松市社会福祉協議会のフードバンク事業の一環として、様々な理由から廃

棄しなくてはならない野菜や果物を青果関係の卸売業者から引き取り、香川大に届ける活動を行っています。当時、コロナ禍で打撃を受けた会社やお店には公的な支援がありましたが、学生さんの実態がなかなかつかめず、支援が行き届かない状態で

この仕事のやりがいは、やはり市民の方に喜んでいただけること。「これは本当に、市民のためになるのだろうか」と思いながら事業を進めることもあり



副市長を退職した後は、現在行っているひとり親家庭の支援など様々なボランティア活動に専念します。

高松市副市長・
高松市社会福祉協議会会長

かとう あき ひこ
加藤 昭彦

香川県高松市出身。経済学部のOB。1978年、高松市役所に入庁。環境部、企画財政部、市民政策局などを経て、2014年、高松市副市長に就任。2019年から、社会福祉法人高松市社会福祉協議会の会長も務めている。趣味は旅行、スポーツ観戦、音楽鑑賞。カマタマーレ讃岐は地域リーグのころからずっと応援している。